



人生で起る事は全て必然である

好きな言葉

船内はまるで迷宮のよう。18階1353室、客室やバー、プールなどに豪華な装飾が施され、約2700人の乗客が高級感たつぷりの雰囲気味わう。29日に高知新港高知市仁井田に寄港した巨大客船「クアンタム・オブ・ザ・シー」よりはやや小さいが、それでも全長200メートルある豪華客船「ダイヤモンド・プリンセス」が5月20日と6月11日、同港に入っていた。接待するのは世界各地から集まった1100人の乗務員。その中の数少ない日本人に高知市に住むクルーズスタッフの伊藤友美さん(29)がいる。船のロビーの一角で、米国人女性に折り紙を教えていた。流ちょうな英語。陽気な会話。明るい雰囲気に乗客が次々と集まってきて「What?」と興味津々で声を掛けてくる。「日常では味わえない時間を求めている乗客に、常に最高のサービスを提供したい」。ダンスショーやクイズ大会の司会、血縁付けやダンス講師。伊藤さんは、さまざまなお趣向で

夢の船旅 最高の笑顔で



外国人の乗客に折り紙を教える伊藤友美さん(高知新港に停泊中のダイヤモンド・プリンセスの船内)

クルーズスタッフ

伊藤友美さん(29) 高知市鴨部2丁目



乗客を楽しませる。土佐女子高校を卒業後、ハワイの短大へ留学。21歳の時に1年間ワイキキの海を周遊するツアークルーズ船で、演奏会やダンスショーの司会を務めた。近くの港に停泊していた巨大な豪華客船は「いつか働きたい」

と思う憧れの存在。その乗務員は小さい頃からの夢だった。2年後に帰国し、高知市で英語教室の講師として3年間働いた。夢を諦めきれずに客船乗務員の試験を受け続けた。27歳の時、世界を巡る17隻の豪華客船を運航する米国のプリンセス・クルーズ社に採用された。高知市に住みながら、半年間

は岸上勤務となる。配属は船のエンターテインメント部門。折り紙やラインダンスを教え、乗客参加の水泳大会やコーラス発表会の進行役も務める。日本やアジアの各都市を巡る5、10日ほどのツアーでは、部屋のグレードなどによって異なるが、1人10万円前後から100万円を超えるプランもある。カシ

ノや劇場、ぜいたくな料理...乗客は寄港地での観光とともに船内、非日常の時間を味わう。「悲しんでも疲れていても部屋を出たらステーション。テンションを上げていつも笑顔で」。体力的にも精神的にも忍耐の必要な仕事だが、乗客の感謝の言葉が支えになった。「短い期間でも自分の存在価値を認めてくれて『友美に会いたい』とメッセージに来てくれる人がいる。逆に元気をもらっている」



2回目の地中海とカリブ海航海を終り、6月からはアジアを巡る3回目のクルーズに乗船。日々めまぐるしく変わる環境も「今日のオフィスはスペイン、明日はイタリア。毎日違った景色を満喫できる」と楽しも。世界42カ国から集まったクルーや国際色豊かな乗客との交流を通して「日本を代表している」という意識を持つようになった。

浴衣を着たり、お茶をたてたり、日本語でジュークを飛ばしたりと「海外に溶け込むのではなく、日本人らしさを追求したい」と取り組んでいる。「豪華客船の旅は、家族や友人にとってずっと心に残るものになる。一生の記念に立ち会えることが幸せ」

世界中の人たちの人生の思い出づくりを演出する仕事。伊藤さんは、今日も最高の笑顔で夢のような時間を乗客に提供する。

写真・飯野浩和 文・楠瀬慶太